

第32回BELCA賞 選考総評

BELCA賞選考委員会 委員長 三井所 清典

BELCA賞は、良好な建築ストックが現代社会で生き生きと活用され、未来に引き継がれることを目的に設けられた賞である。賞を2部門に分け、長年にわたり適切に維持保全され、今後も長期保全の計画がある模範的な建築物をロングライフ部門とし、社会の変化に対応したリフォームにより、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門として選考、平成3年から昨年までの表彰件数は306件を数えている。

BELCA賞への関心は年々高まっているが、現代社会で活用されるためには、ロングライフ部門でも、耐震改修や設備の抜本的現代化が必要であり、ベストリフォーム部門では、建築寿命の長期化に伴い、利用者の建築物への愛着を重んじる傾向を深めている。そのような事情から近年は両部門の表彰件数は定めず、合わせて10件以内を選考することになっている。本年はロングライフ部門1件、ベストリフォーム部門8件となった。

今回表彰されるロングライフ部門では、

- ・モダニズム建築の外観を改修保全し、設備を現代化した講堂のある大学の学生会館が選考され、

ベストリフォーム部門では、

- ・レンガ倉庫の外観を改修保全し、内部を改修した市民に開かれた美術館
 - ・地下を増築して1階廻りの増設部を撤去し、創建当時の外観を復元した美術館
 - ・意匠性に優れた小学校を増改築し、人々が集いやすい都心のホテル
 - ・役割を終えた電波塔を都心のシンボルとして残し、改修された観光施設
 - ・地震で被災した天守閣を多様な耐震補強技術を駆使し、修復復元された城郭建築
 - ・現代に求められる安全性・機能性・快適性・省エネ性を向上させた武道館
 - ・公民館を減築し、温泉場と公園の玄関としての機能を実現した観光施設
 - ・事務所ビルを改修して、大学が都心に設けたサテライト教育施設
- が選考された。

今年はロングライフ部門の表彰が1件と少なかったが、ベストリフォーム部門の外観を復元した美術館と城郭建築及び武道館の3件は屋根の大改修、耐震補強、設備の更新、性能向上など大規模な改修をしたためベストリフォームに応募されたであろうが、用途も変わらず、長寿命化を目指しているため、ロングライフ部門の建築物とみることもできよう。

受賞建築の建築年齢をみると、ロングライフ部門は65歳であり、ベストリフォーム部門は100歳、96歳、95歳と長寿建築が3件、69歳、63歳、59歳の高齢建築が3件、あとの2件は39歳と38歳である。受賞建築の高齢化が進行していることは環境問題の影響もあろうが、建築物への利用者の愛着が増し、それを重んじる傾向が確実に深まっているようだ。

応募作品の水準が高まっており、惜しくも選に漏れた建築物については、更に充実した内容で再度の応募を期待したい。